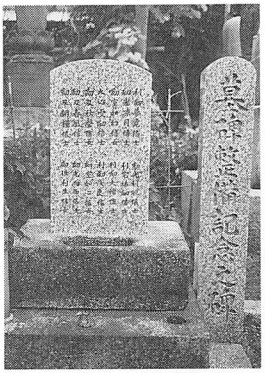
記事

消息

山脇東洋墓碑・山脇社中解剖供養碑再建記念事業を終えて

山脇東洋顕彰事業は京都では過去二回行われた。第一回は昭和三十七年五月二十七日。東洋観臓二百年を記念して旧京都府医師会館で、小川鼎三氏、田中助一氏、ラインハルト氏（カリフォルニア大学解剖学教授）による講演と史料展示を行った。その後京都大学解剖学西村秀雄教授らによる綿密な調査により、観臓場所は旧六角獄舎（京都感化保護院、現在の盟親）の庁前であることが立証されたので、山脇東洋顕彰会（代表守屋正）を結成して昭和五十一年三月七日、感化保護院内に観臓記念碑を建立、除幕して京都府医師会館で小川鼎三氏、熊谷康次郎氏による記念講演を行った。同時に誓願寺墓地（京都市中京区裏寺町通六角上ル）の山脇家墓地の整備を行った。

それ以来毎年三月七日には京都府医師会史料室員と京都医学史研究会有志は、観臓記念碑と誓願寺にある東洋墓碑と解剖供養碑への参拝と献花をつづけてきた。しかし両碑石とも砂岩のため、数年来、風化が進み文字の判読も困難となってきたので、再建せねばと考えたが実現には至らなかった。たまたま本年は京都建都一二〇〇年に当り、また東洋観臓実施満二四〇年となるのを記念して、再建整備することを医学史研究会役員で決め、昨年十一月から具体的実行にとりかかった。



山脇社中解剖供養碑
（誓願寺墓地）

幸いに誓願寺および山脇家の全面的賛同を得ることができたので新たに山脇東洋顕彰会（会長岡本道雄）を結成し、発起団体として日本医師会、日本解剖学会、日本医史学会、京都府医師会、医道顕彰会の協賛を得て事業をすすめることができた。実行委員として中橋弥光、北小路博央、奥沢康正、坂上俊之と杉立が当った。一番の関心事は再建後の古い供養碑の保管をどうするかという点であった。精巧な補修を行っても戸外に置けば長年月の間には再び風化をおこすことはさけられない。かといって誓願寺としても建物内に置くことは出来ない。究極的に山脇家の寄贈をうけて京都大学文学部博物館がひきうけて下さることとなった。四月初旬より八月末までの間に、各発起団体会員及び日本東洋医学会役員の方に、趣意書を送って醵金をお願い致した結果、二六〇人の方々から多額の浄財をいただくことができた。そこで東洋墓碑と解

剖供養碑の同型同文の新碑を作り、九月十二日拔魂式を行って工事にとりかかった。

九月十八日、山脇洋亮氏(山脇家十一代当主)、各発起団体代表、顕彰会関係者、醵金された方々七十数名が参加して、午後一時より墓地で両碑の開眼供養、ついで誓願寺本坊で記念法要(山脇家、山脇社中で解剖された一四体。山脇社中の解剖に関与したすべての人々に対して)を営んだのち記念式典、記念講演を行った。そのうち主なる方々のスピーチの大要を記す。

岡本道雄会長：転換期にある医学・医療にとって山脇東洋先生の実証的業績と人間愛の精神は、現代の吾々に大きな教訓を示している。顕彰事業が順調に行われたことを悦ぶとともに発起団体のご協賛に感謝する。

杉立義一実行委員長：今回の墓碑再建事業の趣旨と現在までの経過を報告し、明春四月を期して「啓迪」記念号を発行すること。さらに東洋墓碑上屋に掲げた説明文は宗田一氏の撰文によることを併せて報告した。

内野滋雄日本解剖学会理事長：日本解剖学会は明治二十六年七月第一回解剖学会総会を開いており、明年は第百回を迎えるので記念行事を考えている。物を正確に観るという東洋先生の精神をよみがえらせる今回の碑の再建事業に深い意義を感じる。

蒲原宏日本医史学会理事長：東洋の業績を医史学的に評価したのち、観臓の一ヶ月後に誓願寺隨心庵で解屍者の慰霊祭を行い、さらに解剖供養碑を建立したことに大きな意味を感じている。今回碑が再建されたことは医史学会として喜ばしいことである。

有馬弘毅医道顕彰会代表：医家先哲を顕彰することを趣旨とする医道顕彰会は、東洋先生碑、供養碑再建を全面的に賛同してきた。

朝尾直弘京都大学図書館長文学部教授：貴重な解剖供養碑を文学部博物館にいただくことができたことに深く感謝する。東洋先生の独創的な実証精神の生きた教材として大切に保蔵しかつ展示させていただいて、学生、市民にも広く公開して学問の進歩に役立たせたい。

次に山脇洋亮氏の謝辞があり、式典を終えた。

記念講演は国際日本文化研究センター教授山田慶兒氏による「山脇東洋の思想」と題する講演があった。東洋の著作(養寿院医則、東洋洛語、傷寒論会業、刻外台秘要序)と諸家との往復書翰等より原条文を引用して、東洋が古医方に志すに到った思想的過程につき、一時間にわたって講演された。

なお別室において関連史料の展示会を開いた。山脇家六代(玄心・玄脩・東洋・東門・東海・東甫)の肖像、家譜、延寿院十七ヶ条併誓詞、蔵志、山脇東門観臓図巻(玉砕臓図)、以上山脇家所蔵。臓志図(原図)日本医学文化保存会所蔵。また小石家究理堂から玉砕臓図、平郎臓図、発鞭臓図、東門男人女人解剖図等。また養寿院医則、東洋書翰(玄侃宛)、東海筆跡(勤儉)、ヘスリング著解剖書、東洋肖像(異像)等も地元から出品展示された。また石原理年氏の御尽力により小型印が作

製された。

講演終了後、別室で誓願寺管長様を加えて懇親会を開いた。報告を終えるにあたり痛感することは、碑石を新たにしたことによって、東洋の人格、思想、業績などについて現時点において再び考えなおすよい機会となったということである。

最後に各方面にわたり御指導、御協力を賜った各位に対し深く感謝申上げる。

（杉立　義一）

第四回国際アジア伝統医学大会（The 4th International Congress on Traditional Asian Medicine）

標記の学術大会が一九九四年八月十九日から二十一日までの三日間、東京の国立教育会館を会場に開催された。グレコ・アラブ系のユナニ、インド系のアユルヴェーダ、および中国系などアジア諸伝統医学の学際的研究発表と交流の大会で、第一回はオーストラリアのキャンベラで開催された。

主催はヨーロッパに本部があるIASTAM（International Association for the Study of Traditional Asian Medicine、国際アジア伝統医学協会）で、今回は日本東洋医学会も主催に加わった。共催が日中医学協会、協催が東亜医学協会・ミズノ、後援が文部省・厚生省・外務省・通産省・日本医師会・日本医史学会など計十九の機関・団体等で、事務局は順天堂大の医史学研究室内におかれた。

今大会は役員が名誉会頭：矢数道明、会頭：大塚恭男、事務局長：酒井シヅ、副事務局長：津谷喜一郎、プログラム委員長：Paul U. Unschuld・丁宗鐵、組織委員：青木保・杉田暉道・中田直道・松田邦夫・室賀昭三・山田慶兒の諸氏で運営された。主な日程は次のようである。

十八日はサテライトシンポジウムが「日本における宗教と医学」のテーマで、熱海ＭＯＡ美術館の能楽堂で持たれた。座長は青木保氏。

十九日はバシャム賞の授賞式と記念講演があり、今回はRoger Jeffery・Patricia Jefferyと栗山茂久の各氏が受賞した。またワークショップは1「近代以前の伝統医学の文献的研究」がP. Unschuld座長、2「漢方薬の科学的研究」が鳥居塚和生座長、3「アジア伝統医学システムの存続と復興」が真柳誠・A. Goble座長、4「自然と医学」が永田勝太郎座長、5「社会科学とアジア伝統医学」が湯浅泰雄・園田恭一座長、6「アジア伝統医学とマネー」が津谷喜一郎・R. Jeffery座長で、各国から発表がなされた。一般講演はオーラルとポスターの双方があり、当日夜は会場となりの霞ヶ関ビル内の東海大学同窓会館で懇親会が持たれた。

二十日はIASTAM名誉会長C. Leslie氏の特別講演「盲人の人類学者とアジア伝統医学の象」、大場恭男氏の会頭講演「古代アジア医学の伝統」があった。ワークショップは7「針灸と近代文明」が八瀬善郎・R. Chow座長、8「精神医学とアジア伝統医学」が中田直道・池上正治座長、9「生命呼吸